

| 科目名 診療の補助技術 I | 配当時期 2年次前期 | 講義担当者 | |
|--|---|------------------|------------------|
| 時間割表記名 診療の補助技術 I | 単位数 1単位 | 川野友美 樋口 裕也 | |
| | 時間数 30 時間(16 回) | (実務経験のある教員) | |
| 事前学習内容 | | | |
| 演習前には技術の動画を視聴する。テキストと動画を活用しながら、技術の根拠を含めた手順をレポートにまとめる。講義の前には、呼吸・循環・血管・皮膚に関する解剖生理を学習し、レポートにまとめる。 | | | |
| 授業目標 | | | |
| 1. 与薬、輸血、創処置における看護の役割を理解し、実施する基本的な援助技術を実践できる。 | | | |
| 2. 診療・治療・看護で使用される医療用機器の原理を理解し、その取扱い方法と留意点が理解できる。 | | | |
| DPとの関連 | | | |
| DP2. 一人ひとりの健康状態に応じて、最善の看護を選択し、科学的根拠に基づいた看護を実践できる。 | | | |
| DP5. 自己を理解し、他者を尊重したうえで、人間関係を構築することができる。 | | | |
| 授業の流れ | | | |
| 回 | 学習内容 | 方法 | 備考 |
| 1 | 与薬の技術 1)与薬の基礎知識 (1)薬物の基本的性質(与薬方法、薬物動態) (2)看護師の役割 2)援助のための基礎的知識 (1)経口与薬・口腔内与薬 (2)吸入 (3)点眼・点鼻 (4)経皮的与薬 (5)直腸内与薬 | 講義 | テキスト①③ 資料 |
| 2 | 注射の基礎知識 | 講義 | テキスト①③ |
| 3 | 1)注射方法の種類と概要 2)注射筒と注射針 3)実施上の責任 | | 資料 *3 回目 45 分 |
| 4 | 与薬の援助の実際 【経口与薬・吸入・点眼・経皮与薬・直腸内与薬】 | 演習(技術) グループ学習 | テキスト①③ 資料 |
| 5 | 注射の実際 | 演習(技術) | テキスト①③ |
| 6 | 1)筋肉内および皮下注射に必要な物品の取り扱い 2)筋肉内注射の方法(三角筋、中殿筋) 3)皮下注射の方法 【シミュレーターを使用する筋肉内注射、皮下注射】 | グループ学習 | 資料 |
| 7 | 点滴静脈内注射の実際 | 演習(技術) | テキスト①③ |
| 8 | 1)点滴静脈内注射に必要な物品の取り扱い 2)翼状針による点滴静脈内注射 (1)針の固定 (2)滴下速度の調節 【シミュレーターを使用する点滴静脈内注射】 | グループ学習 | 資料 |

| | | | |
|--|---|----------|---|
| 9 | <p>医療機器の原理</p> <p>1)医療機器とは</p> <p>2)医療機器を使用するための基礎知識</p> <p>(1)医療機器における医療者の役割 (看護師、臨床工学士、安全管理責任者)</p> <p>(2)電気設備</p> <p>(3)医療用ガス設備</p> <p>3)医療機器の種類</p> <p>(1)検査のための医療機器</p> <p>①心電図モニター・血圧計</p> <p>②パルスオキシメーター</p> | 講義 | テキスト② 資料 |
| 10 | <p>医療機器の取り扱いの実際①</p> <p>【心電図モニター・パルスオキシメーター・12誘導心電図】</p> | 演習(技術) | テキスト② 資料 |
| 11 | <p>医療機器の取り扱いの実際②</p> <p>【輸液ポンプ・シリンジポンプ】</p> | 演習(技術) | テキスト② 資料 |
| 12 | <p>輸血時の意義と看護師の役割</p> <p>1)輸血の基礎知識</p> <p>(1)目的 (2)種類 (3)副作用</p> <p>2)輸血の援助と方法</p> <p>(1)患者への説明と同意</p> <p>(2)実施方法</p> | 講義 | テキスト①③ 資料 |
| 13 | <p>創傷管理</p> <p>1)創傷とその治癒過程</p> <p>2)創傷治癒のための環境づくり</p> <p>創傷処置</p> <p>1)創洗浄と保護</p> <p>2)包帯法(目的・種類・方法)【包帯法】</p> | 講義 演習 | テキスト①③ 資料 |
| 14 | 技術試験(筋肉注射) | 試験(技術) | |
| 15 | | | |
| 16 | 筆記試験(45分) | 試験(筆記) | |
| <p>受講上の注意</p> <p>○グループ学習はジグソー法を取り入れる。リーダーが教員から技術を学び習得し、メンバーへ説明・指導をしていく。</p> <p>○各自、技術が習得できるよう練習を行う。ただし、針を使用するときは、教員の見守りの下、練習を行う。</p> | | | <p>評価方法</p> <p>技術試験</p> <p>筆記試験</p> <p>レポート</p> |
| <p>○臨床薬理学の学習を活用しながら学ぶため、復習をしておく。</p> <p>使用するテキスト</p> | | | |

①系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 医学書院

②系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論

③看護技術プラクティス 学研

参考文献

①オールカラービジュアル 基礎看護技術ガイド, 照林社

②根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術, 医学書院